



長野市男女共同参画情報紙「With You」は、男女共同参画社会づくりに向け、年3回、市民編集委員と共に様々な視点から情報を発信しています。今回は、子育てパパの座談会取材しました。

座談会のテーマ： 子育てと育児休業

座談会参加者

仁科賢人さん

…2か月(娘)、6歳(息子)、9歳(娘)の父親

長谷川将太さん…5歳(息子)の父親

廣石健悟さん…3歳(娘)の父親

(令和5年12月取材時現在)



今回お話をいただいた(左から)長谷川さん、仁科さん、廣石さん

育児は期間限定の特別な時間です。 父親をもっと楽しもう

厚生労働省と総務省の調査結果から、ここ数年で男性の育児休業取得率は上昇しています。しかしながら、まだ依然として男女間で大きな差があります。育児休業取得期間を見ても、約8割が10カ月以上取得している女性と比較して、男性は約半数が2週間未満、約9割が3カ月未満であり、年を経ること長期化しているものの、短期間の取得となっています。

子育て中のパパの座談会を開催し、3人の方にお話を聞きました。

育児休業取得で 変化したこと

仁科…1人目の出産の時は家庭のことは妻にまかせきりで、私はほぼ何もしていませんでした。2人目の出産の時、自分が育児休業を取得するからには、頑張ろうとしました。でも、初めは家事をしても妻とうまくかみ合

いませんでした。妻は私に母親の代わりではなく「父親として」家庭と子どもにできることをしてほしいと望んでいたのです。そのことに気づいた後、昼間は私が主に子どもの世話をし、夜は授乳も含めて妻が、という具合に時間帯を分けて動きました。とにかく妻の希望を聞いて動くようにしました。

長谷川…妻の希望を聞くことは大切だと思います。妻や育児について求められることを正しく理解しないと、一生懸命やってもただやっているだけになることを痛感しました。妻が求めていることと違うことをしても、何か違うとなり、結果として妻は楽にならないということがわかりました。

家事や育児を、自分も妻と同じようにできると思い込んでいました。実際にやってみたら、全然できないことに驚きました。例えばおむつの交換も、子ども

は肌が敏感だから想像以上に気を遣わなければいけないとわかりました。この経験から普段妻がいろいろな場面で気を使っていることがやっと理解できました。

廣石…私の場合、妻が出産直後動けなかったこともあり、自分でなんでもできるようなろうと、ひと通りのことはやりました。子どもを寝かしつけるのは難しく、昼寝をさせるのも大変でした。抱っこして寝かしつけますが、やっと子どもが寝てくれたと思つて布団に置いた瞬間、子どもはすぐ起きてしまいます。だから右手でご飯を食べながら、寝ている娘を左手で抱っこする技を身につけました。でも麺類を食べていた時に、子どもが急に動いて、思いつきり汁をこぼして困ったことがありました。想像はしていましたが、実際に



パパの座談会の様子

やってみると大変なことがわかりました。

嬉しい、楽しいと 感じた瞬間

仁科：率直に子どもの成長を感じることが嬉しいです。ホニヤホニヤだった赤ちゃんが、少しぶつくりしてきて重くなり、首もだんだんしっかりしてきて、私と目が合い、ニコツとしてくれた時、最高にハッピーな気持ちになります。私は愛情と接する時間の長さには関係があると感じていて、子どもと一緒に居る時間は大切な時間です。



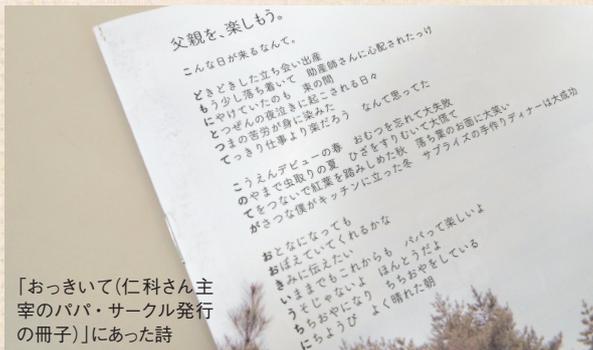
オーバーオールはパパの「正装」です。ポケットに財布もタオルも入るし、ジャングルジムだっで子どもと一緒に入って行けます。(仁科さん)

むつ交換は私も担当していて、妻よりも効率良くできる自信があります。娘がしゃべれるようになって「おむつを替えるのはパパがいい」と言ったらしく、妻の機嫌が悪くなったことがありました。

長谷川：息子と喜びを共有できたことが嬉しかったです。ある日、息子がどうしても公園に行きたいと言っているので一緒に行くと、そこには鉄棒がありました。息子は「パパに見てほしい」と、できるようになった逆上がりを見せてくれました。

夫婦で 大切にしていること

仁科：3、4カ月に1回、妻としっかりと話し合う時間を作っています。あれはどうしようとか、日々の生活で気がついたことを話します。子ども達のこととはもちろんですが、家の中であそこが不便、だからこうしたい方がもっと動線がよくなるのかという話もします。育児に積極的に携わるようになってから、生活で起きていることが気になるようになりました。「今の叱り方はどうだったのかな」とか、妻と2人で振り返る時間になっています。生活の様々なことをすり合わせています。



「おっきいて(仁科さん主宰のパパ・サークル発行の冊子)」にあった詩

廣石：私も妻と方針を共有できたとというのが一番大きいです。お互いの価値観なども含めて、子育てのベクトルを合わせることでできました。「娘が自分で選択できることは極力、娘に選択させる」と、夫婦で共通の考えで育てています。時には、お互いに改善できるところを話し合い、意見を取り入れていけば良い相乗効果になるのではないかと思います。

長谷川：夫婦はもちろん子どもと、共感する「ことを大切にしています。日々の遊びや身の回りのこと、絵本の読み聞かせなどを通じて「感じたこと」に共感し、子どもの感じていることを共有するようにしています。子

どもの個性や感性を尊重することで親子ともに良い効果があると考えています。

育児休業について

仁科：育児休業を取得して、家族で食卓を囲む時間が増えました。赤ちゃんを家族みんなで見守りながら、今日はこんなことがあったとか、ミルクをあげていた時にこんなことがおきてとか、その日の出来事について食卓を囲み話をする時間が幸せです。仕事ばかりの頃は、帰宅すると私の分だけ食卓に置いてあるとか、自分で一人分の夕飯を作って食べることもありました。家族のありがたさや、幸せを育児休業中にすごく感じています。

私が仕事を休んで家族の時間に割くと選択したことを、子ども達が誇りにしているようです。友達に「お父さんは赤ちゃんのお世話をするために家に居られる」と話していると聞きまし。育児休業中に、家事や育児を分担しながら、家族の状況を十分にシェアすることができました。妻も「父親としてやることを頑張ってくれたから、次のキャリアも応援する」と言ってくれました。その言葉がすごく嬉しかったです。

長谷川：「育児休業」は、その後

の生活のために準備し、夫婦間でお互いの家事や育児に関する認識を合わせて実践する期間だと思っています。認識を合わせることで、育児休業後も家事や育児に目を向けられるようになります。私は育児休業期間が家族で大切にしているのを再認識するとても良いきっかけになりました。

男女共同参画情報紙「With You」の紙面づくりにご協力いただける編集委員を募集しています。詳しくは、広報ながの3月号(3月1日発行)をご覧ください。か、長野市人権・男女共同参画課(電話 026-224-5428)までお問い合わせください。

お問い合わせ

長野市男女共同参画センター

(指定管理者 協同組合長野シーアイ開発センター)

〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1

勤労者女性会館しなのき 内

☎026-237-8303